インカレディベート 参加報告

第 16 期生　岩間 雄亮

◆インカレディベートとは…？

他大学のゼミと，ディベートを繰り広げる場が，インカレディベートです。インカレディベートは，今年，記念すべき 10 周年を迎えました。今年度は，小野ゼミ，関西大学の千葉ゼミ，そして立命館大学の菊盛ゼミと，去年より 2 ゼミ少ない 3 つのゼミが参加する大会となりました。ゼミ数が減った分，密に交流し，両大学との親睦を深めることができました。

◆活動後記

入会後早々，春学期最大の山場がやってまいります。インカレディベート大会です。我々の勝利への執着は，並大抵ではありませんでした。何故かと申し上げれば，「歴代の先輩が尽く好成績を収めるせいですごいことになった勝率を維持する」ことに使命感を感じていたためです。我々は足繁くグループ学習室に通い，立論を用意しては模擬ディベートを披露し，ゼミでフィードバックをもらっては，「魅せる」ディベートとは何ぞと，夜遅くまでメンバーと議論しました。

まとめパートで俳句を詠む北澤くん

【第 1 試合：vs 菊盛ゼミ】

1 チーム目は，「新カテゴリーに新製品を出すなら，既存ブランドか新ブランドか？」というテーマで，菊盛ゼミとディベートを繰り広げました。vs 菊盛ゼミチームは，血の気の多い人たちが集まったチームです。フリーディスカッションでは，持ち前の積極性を生かして，畳み掛けるようなコンビネーションを披露してくれました。しかしながら菊盛ゼミもこれに正面から応じ，両チーム一歩も譲らぬ主張の応酬が続きました。途中「企業ブランドの使い方」が論点になっていたシーンがありましたが，議論が泥沼化する前に，小野ゼミ主導で方向修正をしていたのが印象的でした。

【第 2 試合：vs 千葉ゼミ】2 チーム目は，「老舗ブランドがイノベーティブなイメージを持った新製品を発売する際，単独ブランディングと共同ブランディング，どちらをとるべきか」というテーマで，千葉ゼミと対戦しました。私はこのチームです。我々には，vs 菊盛ゼミチームのようなギラギラ感は無かったので，冷静かつ淡々とした口調でオーディエンスを惹きつける，という路線をとりました。時間を見つけては仲間内で反駁し合い，どんな

角度から攻められても切り返せるようにと，入念に準備したのを覚えています。千葉ゼミの人数の多さに戸惑いつつも，各々が，得意とするパートで積極的にマイクを取り，オーディエンスに語りかけるようなディベートを展開することができました。

何かに物申す著者

結果ですが，2 戦とも勝利に終えることが出来ました。妥当な結果だと頷く人，ホッとして表情を緩める人，満足気に拍手する人，小野ゼミ生の反応は三者三様でしたが，約 1 ヶ月にわたるロートー生活が報われたことの喜びは，全員に共有されていました。

ディベートで全力を出し切った後の懇親会は，毎年恒例の「つるの屋」…ではなく，今年は，“Alice Aqua Garden”という，結婚式の 2 次会で使われるようなお洒落なお店での開催となりました。ディベートの内容に関して，3 つのゼミが言い切れなかった感想を言い合う…という高尚な会ではなく，ただただ飲んで，お互いの努力を心の底から「お疲れー！」と労い合う，賑やかな会となりました。僕の記憶は 2 次会の途中から曖昧ですが，終始話し声・笑い声が絶えなかったことから察するに，普段は関わることがない他ゼミとの貴重な交流機会を，各々楽しんでいたのだと思います。

懇親会の始まり@Alice Aqua Garden

最後になりますが，我々のディベート用資料や，ディベートに対する姿勢について，細部にわたってアドバイスをくださり，相談に乗っていただいた小野先生を始め，我々にはない視点から意見をくださった大学院生の皆様，お忙しい中模擬ディベートの相手を務めていただいた 15 期の先輩方に，感謝申し上げます。ありがとうございました。

3 ゼミ合同写真（著者は前列，右から 7 番目）